

第11回憲法学習会 (憲法カフェ)

5/25

表現の自由

良い番組は褒めることも

「表現の自由について」と題して本部書記「放送法」へと進められ、局を会場に、杉山茂雅弁護士(杉山法律事務所)にお話しいただきました。杉山弁護士の話は「『学問の自由』と『適性手続きの保障』」(第五回)に続いて二回目です。

この春に川内北キャンパスの全教室にインターネット配信用のビデオカメラが設置されましたが、これは異常事態なのではないかと考えながらお話を伺っていました。

「東北大学職員組合から講師派遣要請があると法学部の先生がいるだろうと敬遠されてしまい自分に回ってききました。また『放送法』は司法試験には出ませんので…」との前振りにお話は憲法二十一条の

「表現の自由」から「放送法」へと進められました。

この点、法律論だけではなく報道機関内部についてもお話があり、報道機関は決して一枚岩ではないとのこと、そして番組に疑問点があると杉山弁護士は報道機関に直接電話をされたこともあるとのこととです。そして大事な点は良い番組は褒めて勇気づけることも必要とのことでした。萎縮と自粛の精神構造から言論の自由を解き放つ意気込みを感じました。

翌々日には団体交渉を控えるという組合としてもタイトなスケジュールの中での開催でしたが、議論はいつも通り盛り上がったと思います。

(執) 高橋禎雄さん

第56回宮城県母親大会
記念講演を聞いて
沖縄の現状を知ってほしい!
伝わってきた講演者の思い
(多元研支部) 桜井美奈子さん

今年は大崎市立古川第五小学校において、1450名の参加を得て行われました。

オープニングの歓迎は若さ溢れる「高倉稔太鼓」と「古川工業高等学校ダンス部」のヒップホップダンスでした。挨拶の後、基調講演としてジャーナリスト・映画監督として活躍中の三上智恵さんの「未来を拓く 沖縄のたたかい」がありました。東京生まれの三上さんが沖縄放送局でキャスター、ドキュメンタリーの取材や制作に携わってきた。しかし沖縄で放送ができて、本土で取り上げられる事は

少なく、本土では関心を持ってもらえていない。そんな彼女が2014年3月以降フリーの映像作家として、戦後の沖縄問題をいろいろな角度から取り上げドキュメンタリー映画を作っている。そして全国各地をまわり上映会をすることで、沖縄を広く理解してもらえよう頑張っている。

第56回宮城県母親大会
分科会に参加して
「電磁波の恐ろしさ」
-利便性の陰に潜む危険性-
(病院支部) 金野嘉子さん

その必死さがひしひしと伝わってくる今回の講演でした。がんばれー三上さん。

家庭に溢れる電化製品と垂れ流される電磁波、見えないものの恐ろしさ、携帯電話基地

局周辺での雑草の成長に異常がみられるとの報告の文字に引き寄せられ参加しました。電磁波には太古の昔から自然界にあるものと人間が作り出したものがあり、すべての電器器具から電磁波は放射されているとのこと。人為的に作られた電磁波は健康に影響を与えると世界規模で懸念され始めた出来事は、約40年前の米国の「高圧送電線400m内の子どものがん発生率は他の地域の2倍であった」という調査結果だそう。がん以外にも電磁波過敏症、うつ病、白内障、アルツハイマー、流産、生殖機能障害、脳腫瘍、切れやすい現代人、不眠等々の研究結果が多数あるそうです。私には入れない、男性の生殖能力に影響を与えるかもしれない等々」と言われているようです。

家庭に溢れる電化製品と垂れ流される電磁波、見えないものの恐ろしさ、携帯電話基地

教職員共済 入っていて良かった!

自転車で転倒して二針縫う怪我。家族型に2口加入していたため、1日7,000円で抜糸までの数日間分の給付を受けた。(M)

